

持続可能な都市の構築に向けた検討の視点について

資料 3

京都市の特性

1200年を超えて受け継がれてきた歴史や文化の厚み。それを日常生活の中で身近に体感できる世界でも稀有なまち
内陸盆地都市の特徴をいかし、三山の自然的土地利用とその地理的条件によって限られた市街地の都市的土地利用

土地利用の基本的な考え方（都市マス）

「保全・再生・創造」の土地利用を基本とし、京都の歴史性や景観など、これまで引き継がれてきた地域ごとの特性をいかして、
秩序ある土地利用や集約的な都市機能の配置を図る。

京都市の現状（平成28年度基礎調査結果）

- ① 三山に囲まれたコンパクトな都市が形成されており、今後、人口減少が進行するものの、一定高い人口密度を維持
- ② 概ね全域に医療・福祉・商業施設等が立地
- ③ 公共交通路線からの徒歩圏に居住する人口が9割超



人口構成，社会経済動向の変化

課題認識※

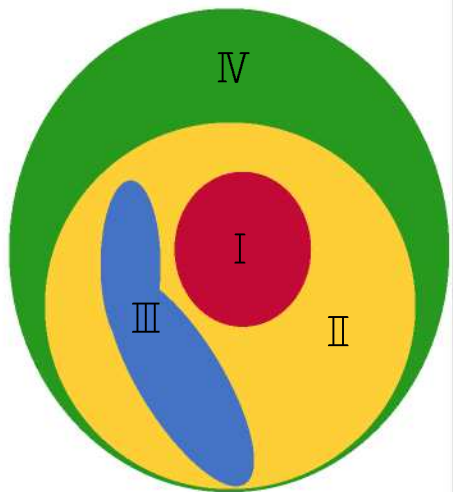
- 1 人口、人口密度等の推移における地域間での進行度合いの差（周辺部等において減少が顕著）
- 2 少子高齢化による生活文化や地域コミュニティの担い手の減少
- 3 交流人口の増加。特定のエリアへの偏在による市民生活への影響
- 4 空き家の増加，市場流通性の向上
- 5 住農工混在地域における居住，営農，操業環境の確保
- 6 企業の事業拡大や企業誘致を進めるための産業用地の確保
- 7 市街化調整区域等における地域の存続
- ※ 今後の課題分析を踏まえ，随時検討を行う。

課題項目

- 1 都市の機能と居住地のあり方
- 2 京都特有の文化の継承・創造
- 3 都市の活力の維持・向上
- 4 既存ストックの活用
- 5 生活利便性の確保
- 6 地域コミュニティの維持
- 7 防災・安心安全の確保
- 8 自然・景観の保全 など

対象エリア

- I 商業・業務機能の集積拠点
- II 住宅地・生活拠点
- III ものづくり拠点
- IV 緑豊かな地域



既存の都市インフラの活用，地域コミュニティの維持

歴史・文化・景観等の継承と創造

大学，観光，ものづくりなど，都市の魅力を一層高める土地利用

人と公共交通優先の歩くまち・京都の推進 等

京都ならではの特性と資源を徹底的に活用した
持続可能な都市の構築